

出穂期早まる！穂肥を確実に施用し、高温対策を！

【7月21日生育状況】（管内10か所平均、平均田植日5/19）

草丈(cm)		茎数(本/m ²)		葉数(葉)		葉色(SPAD)	
本年	指標値比	本年	指標値比	本年	指標値差	本年	指標値差
73	106%(やや長)	412	102%(並み)	12.6	+0.7(早い)	33.7	-0.8(並み)

- 高温が続いたため、葉数の進展が早く、生育は早まっている。
- 1か月予報(7/16新潟地方気象台発表)では、向こう1か月間の気温が高い確率は70%で気温は高いと予想されている。

【今後の管理のポイント】

1 コシヒカリの出穂期予想と穂肥時期のめやす

田植日	出穂期予想	穂肥適期のめやす(カッコ内は出穂前日数)	
		2回目	3回目
5/15	7/31	7/21(10)	7/28(3)
5/20	8/2	7/23(10)	7/30(3)
5/25	8/4	7/25(10)	8/1(3)

(※ 5/20 植えコシヒカリの出穂期は平年より2日程度早い8/2頃の見込みだが、田植えが早いほど出穂が早まっている。5月上旬植えコシヒカリでは7/25頃に出穂期を迎えると予想されるほ場も見られる)

2 2回目穂肥を確実に施用し、後期栄養確保

(1) 分施肥系の2回目穂肥

- ・ 後期栄養確保のため、**適期に確実に施用**(出穂期10日前に窒素成分1~1.5kg/10a)
※ 2回目穂肥時期の葉色が薄い場合(SPAD値で31以下)は2回目穂肥施用量を増量する。

(2) 全量基肥一発施肥体系の追加穂肥

- ・ 高温が予想されるため、出穂期の葉色(SPAD値)が32~33を下回ると予想される場合は追加穂肥を施用する。(出穂期10日前頃に窒素成分1~1.5kg/10a)。

(3) 3回目穂肥

- ・ 出穂期3日前頃に葉色が薄い場合(SPAD値で31以下)は、窒素成分1kg/10aを施用
(※ 特栽米で計画にない追加穂肥や施用量を増やす場合は所定の手続きを行う)

3 水管理は、飽水管理で品質・収量確保

- 飽水管理により、用水を有効活用し、根の活力を維持しながら地温上昇を抑える。
- かけ流しは、絶対にしない。
- 番水やローテーション等、地域での水管理体制を検討し、用水を有効利用する。

【図 飽水管理の方法】



農作業時の熱中症に注意しましょう。こまめな水分・塩分の補給や休憩が大切です。

次回発行
7月30日